上原だより

令和８年度１１月号
令和８年１１月２日
渋谷区立上原小学校
校長　佐伯　孝司
https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240

実生活や他教科等に生きて働く教科の学習　　校長　佐伯　孝司

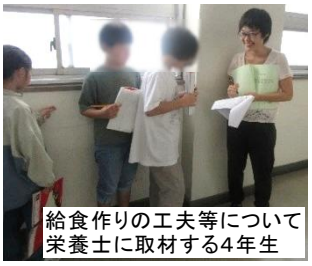
10月22日の給食




6年生の教室でも堂々と給食だよりを紹介した4年生

１０月２２日の給食の画像、見るだけでもおいしそうに感じます。加えて、この少し黄色いパン、**〈ハロウィンにちなんでかぼちゃの粉が〉**入っています。**〈朝、パン屋さんが届けてくれるので、ふわふわです。鶏肉を２時間煮込んでだしをとったキャロットスープと一緒に食べ〉**たら…。ハンバーグは**〈牛挽肉と豚肉の２種類〉**を使い**〈玉葱などの野菜を入れておいしく仕上げ〉**、巨峰は**〈当日一番おいしい所から取り寄せ〉**、**〈甘くて食後にぴったり〉**です。こんな言葉が添えられていたら、よりおいしそうで、食べたくなります。

ここまでの〈　〉内の言葉は、４年生が「給食もりあげ隊」となって考えたものです。給食だよりを作成し、給食時に各学級で読み上げてくれました。


給食作りの工夫等について栄養士に取材する4年生

４年生の国語の教科書に書くことの学習で「どう直したらいいかな」というページがあります。教科書では、クラブ活動紹介の例文を目的や相手に応じて見直し、推敲する学習活動が示されています。４年生は、この学習を実生活に生かしました。全校のみんなが給食を食べたいと思ってくれるように、よりおいしく味わってもらえるように文章を書き、推敲し、「給食をもりあげたい」という願いを実現しました。

このように本校では、**教科の学習内容を「実生活で生かす」「シブヤ未来科で生かす」「他教科で生かす」学習づくり**をめざし、全教員で研修・研究に取り組んでいます。身に付けた力が生かされる場面を学習活動のゴールとして思い描き、ゴールに向かうために必要な知識・技能について学ぶ意欲をもち、自ら活動する児童の姿を支えていきたいと思っています。シブヤ未来科・生活科の学習では、企業や地域と連携した学習活動が充実してきています。しかし、活動が楽しく魅力的であることだけではなく、その活動の過程で小学校段階での学習内容を習得すること、**「言葉の力」や「数量や図形の力」などを働かせて課題解決に「生きて働く学力」を育てる**ことこそ大切にしようと考え、授業づくりに取り組んでいます。

５年生を例に挙げます。９月、幼稚園・保育園・こども園の園児を招待し、交流しました。園児に「～してあげる」よりも、園児と「一緒に～する」という交流活動を考えました。小学生が園児と遊んであげるというよりも、園児がやりたいと思う活動を用意し、やりとげるのを手伝うというスタンスです。シブヤ未来科の探究テーマである環境問題と関連付け、ごみの分別の体験、使用済みペットボトルを再利用した工作などを準備して交流活動に臨みました。１０月には、「GX SHIBUYA フェス 2026」に参加し、園児との交流活動の成果も含めてリサイクル素材を活用したグッズ作りについて展示発表しました。



5年生と園児との交流活動


ルーブリックを活用してよりよい話合い方について学び合う学習

この過程で、５年生の国語科の学習では、話すこと・話し合うこと、書くことの力を伸ばすようにしました。また、説明的文章を読むことの学習では、グラフ等の資料を根拠により説得力をもたせる説明の仕方について学びました。園児と一緒に活動したり、多くの人々に説明・発表したりする場面を一つのゴールとして、必要な言葉の力や数量的な力を学び、活用することで、「生きて働く学力」が高まったものと考えています。結果、うまくいったかどうかよりも、うまくいったところとうまくいかなかったところについて自覚し、次の学習に生かす力を伸ばしてほしいと思っています。


6年生から5年生へ学習発表。学年を超えた学習交流もよく行っています。

今月、学校公開を予定しています。**児童の学習過程で生きて働いている学習内容**を想像しながら、学習のゴールに向かう児童の願いをご理解いただくとともに、**参観はもちろん、取材や助言等で児童を応援**していただければ幸いです。